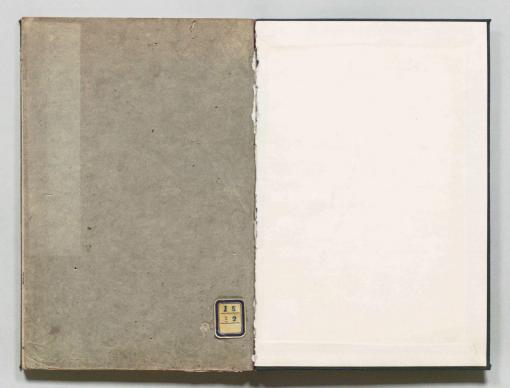


六諭行義大意抄一冊



志民欲納於道故不厭委由丁寧也 恭府召物茂鄉譯之又使室師禮作 本藩故林奉行并水野代官水野樓 大意以并行于世夫,行義之書諄人 大意以并行,于世夫,行義之書諄人 大意以并行,于世夫,行義之書諄人 于此盖恐鄉 摘





天保甲子初春 意為請今權平正矩而與之且記其 藏之有年項野其請廣行之予善其 讀故也權平婆心可謂最切矣刻成 由于卷端 ん世间こわれんちゃれるの気みろ 書言いましょうきたく。はまでもぬり の面はなりもうっかっちっしいろと 尾潘勘定奉行神埜順嚴世獸識 はいる人やからはきい父母い我身代出身 すするいいとうはいきょうのだや は父母のなとよくれりだっちょう 孝順父母 してらうき今春からかけんと 屬吏 加藤春道書

そたり小何と撰いるとなりてもいんくと 級がもとの時としっていりゅうするは かい竹のむいっかってる被長ありくなるい 男いっとうれるそりて成長するはい れるいるととう我りというなから るとかしのいかともれるいるかいあるれど らいはず、文世ふきゆうるんなくい数と 歌幸芸ならん。まるりきえといっ 夢にまかり、そろりとこうなど 子とれりんけやりっとればなまたとい んくろしくれりんかいかけべくつけのいるし ひっていまで目ふえいれますってとうへど あきなっというとないうまけれるとわく 行生うるいろれせねるやわるのもの付う りとが推力から、父母といるを確 したくだとしまくないす 抱うてかるをきくれり 不同わきべぬしと父母のなっ 七書 ったんだっ

不者とりの魚」でする父母の教がよそが と考ませしとうると安せいしていたかん きる常ふれられているりとぎ、父母をと やっちると父母けるとますとりつうちゃ 父母けんすいっかどの安はいっているとび てんさはとなりていくりと年りるがは らざい、父母むーくないるはととからが たりつぎりょうかけかくろうとうとろくい ちくりまっよういできまいいっかい父母は見 いることをでとうべい他もととうべ うく。展展いたいち付め物い省を一次か ないせんさんとうべきななからくくか 日からまと今は付しなる。考をとう 地域かるりからで、父母年とけるはこれ くりとくるとべいかろういろはいとう たというはあるとうるとなるとう いる内意流達いれる 語まりますのいろはありなり

れりいえる我りけれるますくいました はるまるの変といっとてとうつう初き 大うとまとりしつのかはりくれからかれて 妻子いきくえもんりしていっしんめると かりぬろうないつとめとゆきるうれ うきょうしれ妻子ふあいいいとれる らうごうかけせやしなんわりとともなくと るう者をとれりていっくならばない ぬしいかっちゃるい父母かり、人ろ おりているやのなかけまるうというかん れるかわれるとといるとるがして 人、何人うやかり父母」とく。まるい そうちょくいかよくうや我以外抱ち 父母のあるまとうかずからそろます 動うくおとうはくゆしといかと思いだ きいかけもの人父母のちんないのする かったりといきま父母はうといろう ーるといわりる一は内我を

重きるかとしるらくふう ならうちきれるかとい なか かるちまかれるかときるとうん とからくるやりでしるかっていた うたの同いとのけりれるとなる 記載かよりてちどする らし、世上ふりるなるなるまでと 必ずとなず うかってつます 次と、長上ばる数ようと、第二八 る数を かんくうなんそんてくる らられてくとる数とろいくの つめなととつつうわりっくと むまるの 氏なるとしますい 、父母」なりまん そうりまうう世界 て多は

とる数すらたいとが教しきなりり まくしてはる我りとりような ゆかんいっかんれりずやってし あるくいと、湯安というできるがなく かそうかれていちんろうのろん らくちとしるなとから他一長と 上面了 人、父 るか一後けりり年たりにくと 長としていれより年もける いえととうい うでかとろしあるくとのからまり うれんとき いるうずれとうと えるようときふかある 一。就放之配了一个方法 しているとよう ようくえるのきって くれ裁判しるとうだ らくるといくあり次て致 ーておんがある したろうかくる

い妻子は強り 八兄弟 父七回 かと長とというちのかりろ とはる数とう に、長とけあると とうとま 秋飲るかいから とかえし回事ちり 影成ける からんとい、父は海 とすきべるれかかる 初时心路 いいかはらせる 日本 貨財の はは

るったはうやすい。極ばいるとうで すしいし、又長との中かくがけい うというとするととかり。ないい ふかり。後のもうありて対対 というともとくにるかとうする 老年からくちきところけきる 一一人是七多人一 こうだからまありぬり 人の後しとからかりてるなど らたとい年弱って枝を しかそうさくとのとその うらいなかり人質 べきゅかり 人のゆるとうと く数きませるも 一之致すら

日とろのようとはきてうやない 大地でまずいの でいせるか る。他國よわりく、我あんろ なりといるがりむとうべつ こうまとろろ うけるとそけらる。我多 (区) 見のいるでくいっつろけ 人图 らそべったより我身 い国宅は果とない太いを行の後 となかいる一郷のはりだときす あとり とが利とうしたら れいなるよる しんずる。ある人や 郷村の人 いうりとれらし、過れ公事 ~~、教後は男人とうべ るっちん からいました 小常文旗略中 ことと

ちせれまるにあるれいめとこれと 考いきがちまときして、成かりなます おる後ぎれぞうくとってひでと次い文時 やわきいと我一名けいけるときはなし 年ちろ父母け妻ととりからゆうえも ぞうかかくしてゆき、きあるに、我と 但大学かとがといむして数と関ふかん するいはりかかくまべしのなといとなる から不成けかいはかかっくまい けとと思いるうく。我多いとりとそん 一くかる多りでもとうちょうちゃ けきとえていまれるものでき ずる又験知の 大法かり路人 くいたいまかとくもうれかりると きていからかはせら 」そ、は、高貴が代は よりっきとおしお 富化多う男は その違うすで

550 る とだるい。学问わ といかめわ るとろ い、父を いのまとなれるりまる えをおのふるとれ 51 るけれている と一段

をなるるはますずいてくれ なしのかれるるなけっとはながしだら ぬきいっかりなしいはしかまとけい 妻からとろかくろろうすかとい大家小 しるといるとれもうくうりろいある をかりてるほと重しといる強人か 必能の付り、サー小父教にとる えだ。場かんかんといましかなるい 年书 かをゆうすべん 行りかなる。一あけれーみ回り 朝り出入いるよろはなくから から必食がようしるを到い うぐれなせずらまやわろき。 ける者といろいろとき 多れないやしゃくいす カヤーかいました人 殿を一きっ

せかと用い まふめばるいおり からりんんとは むりを被 ろとも 季となっているなる 八分海 ひるう とまるとする いあっとどとしのかとなる。あとため どうからき ちょ るとな 一切全色十 というなる 八小秋八女 ~るでいっとから、人いとき 四上 だっちんな同とちゃくで変 A A 徳とはそろべかん 女性要の場とらそい はれれまいずい といういまるから るといめつきいは ないわときんない ひづいたち るかとかろう べきい年世朝 极少人人 もの男はこつろ 次は小娘子 きかんる 八成長の 经思

玄 父母やとなるとどろぞう れてれるくれるととうりとおくりして から、成八貨成と食る成八個地子 ろのない 格奉動まで小児の親はよりる かれて、そろかなたといるのもや なれるかく、付きり自将を 服者の妻子間きく一切けれたる なとき いならとそろいろ そからりてるないこのめか 小菱柳 いった後ときんでものなす ひふれかく。竹のそうの 心義ハラーきるとち んなる強とそうかっ してもいっとからい 近代です。父歌 作とかといめととつ ははあ 又女子をか いればしてい ともないとはるか

813 あらむ ちとわるきゅから。 れい秋の名とかとうでする るとるはなせで、苦気とけせらしの 各安安理 べってはるないのはたであるり て追かると者も世にとけ そめちとみぬのやかか

天地の前ませるかの人 て我りあるるる不

わりっきてかきな うるかり、またしなけくいけれるは やさんずりでうかりったうからくのる きていかとしてめはうんるまかを をきてかる成れとことといくと りうちくいくっちまれるいるのと むっきとのはれから次は震べい熱 いるをを持く しめるれはやるけ年貢とかんだ るけきくきでしるそうか るのあるのかん

是女 200 37 されにいの氏なる。 我はあるりん き、スサノ 7

大好 日とれられるのかん ムみか をいいせとのノ SA B B りきいる を味いて やいらある。本 改いむ女うたりを成いる変の うべいで目おの の、松楽とゆい 、我小あり れの 形態より うきる間を昼長お書 、磨氏するという るる 城了 富考八一書は養 了や一入う しては なるとうとい 更极多い るき いかい

明らなからていていているようまかりまめ える水がはすとろとはず人かり。ま であるけ、書小我」ましたかとあ ちからちきとろべるべいの町の回と うななからいるというとう をまといいうないとうなるの うれんかられいよう一季とかり 震り付くる、我の概八人が上する てと一節とするんる。他人のはなと としているわろういまう くものかなるいとなるとらいの るがないあったるぞう 教与天命をするかをいく いれりいのかるあるとそうと ときしなあからしえらり 初りかいとうからといきや そまは多利のからのき ういるとう っきつと

おとなるいようの送りところ なるとうともでしるれるおくとれる き、信奏とたりいいはなり、電優成 を分かったうまいてる及びとない そいかがしんとうと取るとまかりかる ですべきれのうかとういき るるま 露まりか

機ものようるく後まのいましかとろん るがなというできばりいったまけっち りん。後子が東の後ろとえてとるとる ぬるれぬという、質好と食いっちから 了世みはとれ しまる端るというなりはでなどっま 爱格之得了 一起とからくまわり。そばよるちゃは そうめた我となっとはまめる 一記るになくもううろと ればえど大きりるる

世の後かと奏けまい奏かく死し ~歌き或いのもりましてれとかった 北とうしてるといる きろくかりときるか 世にい枝をもらりきるものろくいる て褐るのなといれば行ぞれるたんを 松めん ずるするとなってき しないがあからりくすとそろう んぞ一会發起一七色が形成 たるるとはり人と、一多び りをないなるよろかがら そいの日よう 力的 るからとうのかきま 一んるやわろきたま を変えわしなるたとうと わり、大ちの水がまし 文は質素弱からく すれず うかれはくいれる 「おやまうなれい よったろ ふそつき

勢小猫をしの 天は他」い うろとなせい。 いかいはくとから ゆうじきい まけくますろういる。神 かるていつまるいう いけの益りわくきまとは 記後のたりひとなが 傷通り いやをか 猫を行うとわりま 雷のガ うる人城れ 豆はの歌いのう とわらいきい 水とやめど ひるる 世上乃家 べきに 600 1027

れるとはままりき 事八种の目は電ける ころうらかぞ

い書八清朝の大祖康四帝八六路小一て教授かくを整の 記録といい一人是が所義とはきるう其項流域の程順則 六輪初載大意物ゆるよ

ふかくは言を思いまう被國了被初せ一をかそれるう

有徳院養中典 御大業の生るの情的と気が文教を情かに 例義と我 夏澤を以て新烈を振きちれ 即老中 产田国临寺板を 享保车間 產州產 からかなないにいちな

皇那 神龍 又する素後指南の寺子屋の者ふちの書と精く教被は 京江戸大阪の町とい勿論諸国共二死拜禮からを答られ なる水と生、住鉄が押とすい、全てんー 製実後をうらせるとこれ信めたるととは、全は公主情とのできれました。 からかれのかはあっていたはめる うている氏小の競響がられるとと 思るませてれ事が又必事と 今でしてれまたまで和解からりめ是ない 官利ありからき 到点を命ばれ遂り 官利おもくる後きる漢字 祖後先生百城の最下海教授息を祭せてきる一衛中の大衛をうりは後先生百城上の大衛の大衛をかられる ときれずけずれると教诫とうしたいよいととて 歌本ならしたらき さらえ えるうからも 思るのなき が後近入場の言からな か仁恵によって 一緒世の大場るり

市中に肆なと持てる者いれ更もべく大小の差別るく其 養子れてつるちろり女又、手続のち其師家と出せる あのはくときりいたりてい東の倒しと渡ぎれいろを か出来了て一枚い京都書林一枚い江戸書林了徐と京都了べい 小児ホーハ其父母たてのならば一本と持春枝させまさ ~~ 九江戸町 中季切 大岡教前守禄をなて 活有一三をきすって貴とうく戦をく嫁入智 八下者からにい書とれて手代小厮と教後か かく四海の内色都遠境としるといるとろろるく書く 别的 你被ききもちれ有一日右 官到二板

有德院楼 公藏樣格 魔きろとえるに をいうきい其書りも一く見てみかととうまるうへかったりますとうないととうまるうへかったりまするかんとうないととうまるうくかったいろうというないというないというないというないというないというないというない 子孫とり傳へまくの者もでしたとなんとときかっ 書もるがうかく強してることも思しまくなける はけ四書りかく黄沢雅有事でも有とから人と多く 文化年间了今代安設了至了五十余年の春秋と経るただを見れた 平等信濃守様あの書のかく魔をゆくとうくうけぞれ 人也绝了好多的意文化年间大极町 即奉初 得べきになど既し 生年了的行義大意物の根本所持了一居生的 あきあの廣大かり事るろくに抽き等りて記 忠臣義士節婦も家養了出り 流布サー後は優北の人民其徳澤」感教していまと 即國恩の有が死事で人と被是感代し 自分了序文と独と市中日帯人門施工相成り 八事との言をうを使れて老年はりが 凌ぎる者なくかのづく天下の風俗淳朴にして 即節後の 即改正了行七九此六論的義と 諸侯なると深く 即仁情の 一個ある 一旦八け書と

いざと印施いならころい東太の事るれるがくる かんの雅有書物故 繁倫の道とすしんちでは 唯預くい番く客と好せの人とこれ廣大の 一仁惠と何ぎ奉と四六論初義大意抄げ 中額添の上製本元子直版了賣物である」な 中國見のため世でなめんといずら

安政二年七卯九月

書肆一水樂屋東四郎多教禮恭

孫長久之計 不如積隆德於異了中以為子 積書以遺子孫子孫未必能讀 積金以遺子孫子孫未必能守

古宋司馬君實家訓



